

〔和漢三才圖會八十七〕 檍梓 俗云未留女呂、蠻語乎、○中

按檍梓近頃蠻人將來于長崎而今畿內處處有之其樹花實皆合本草註但葉大於林檎而圓薄柔其

實不如林檎多結也、蠻人用沙糖蜜煮食之呼名加世伊太云能治痰嗽、

〔鹽尻三十三〕一梅梨とて瓜のごとくいろ黃にして味不好稟也、木瓜の類に非ず、或は是を檍梓マルと云又花梨牟なりといふ案するに模擬也されば梅をトガと訓じツガと呼又過をトガとよむ此木の實香味不佳の故に毒とも藥ともいふ者なく過ちもなく譽もなし世俗つゝなしとは痴にして心つきなき者をいふ也是をまたとてなしと云は鄉談の訛也、

〔白石雜考五〕木瓜考 檍梓 倭名抄ニ此物ヲ載セズ 多識編曰和名或云利牟幾牟、一云今南蠻云、末留米留是也、貝原篤信曰、檍梓マルメル、稻若水曰、檍梓マルメラ、

右諸說悉ニアヤマレルニ似タリ、多識編ニハリンキントモ、又ハマルメルトモシルセリ、一定ノ說ニアラズ、是未ダ此物ヲ詳ニセザル證也、篤信若水共ニマルメルト云シモ心得ラレズ、リソハ沙果ト云モノ也、下ニ詳ニ見ユ、又今世ニリンキント云モノヲ指テ檍梓トナス、コレ多識編ノ訛ヲ傳ヘタル也、但此アヤマリハ異朝ニモ似タルコト侍リ、李珣ガ南海藥錄關中謂林檎爲檍梓ト云、コレヲ本草綱目ニハ述征記ヲ引テ、林檎佳美、檍梓微大而狀醜有毛トアレバ、林檎檍梓蓋相似而二物アル由ヲ辨ジタリ、サレバ檍梓ハ林檎ヨリ大ニシテ毛アル者也、今世ニ云リンキント云モノハ、リンゴヨリ猶小ニシテ、シカモ毛モナシ、檍梓ノリンキンニ非ルコト、尤明ニ侍ルニヤ、異朝ニモ檍梓ト云モノハ北土ニハアレド、江南ニハ甚稀也ト見エシ、サレバ李時珍モ未ダ檍梓ヲバ見ザリシヤウニ、本草綱目ニハシルセリ、サラバ我國ニモ此物ハアラザルモ知ルベカラズ、右諸家ノ說ヲ併セ考ヘテ、自ノ淺陋ナルヲ省ズ、ミダリニコレラノ物ヲ辨ジ決セんニハ、マルメロト云モノハ木瓜也、カラボケト云モノハ大木瓜也